

な お み

理念

安全・信頼・連携・地域密着
私たちは、地域に密着した病院として、他の医療機関や関係の方々との密接な連携のもと、安全で心の通った医療・保健・福祉サービスを提供し、患者さんや地域の皆さんから信頼され選ばれる病院を目指します。

「信頼され、選ばれる病院を目指して」

新任のご挨拶

医療法人 正観会 御野場病院
院長 皆河 崇志

4月1日付をもちまして正観会御野場病院の院長に就任致しました。5月からは理事長として正観会の運営に当たらせて頂いております。これまで秋田赤十字病院で14年間脳神経外科部長として臨床業務に従事し、その後3年間副院長として病院運営の一翼を担いました。今後は、これまでの経験を活かし、御野場とその周辺地域の医療・介護・福祉に貢献し、御野場病院の更なる発展のために尽力したいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

当院は、昭和53年6月に当時新興団地であった御野場の地に小林尚壬先生により設立されました。本誌の表題「なおりみ」は、創設者である小林先生のお名前に由来します。理事長は、平成21年に小林尚壬先生から三浦莊治先生に引き継がれ、病院長は、初代の武者傳次郎先生から、小林尚壬先生、柳生昭先生、神崎正夫先生、小林尚壬先生、三浦莊治先生、そして三浦邦夫先生へと継承されました。この間、127床であった病床は152床となり、平成17年別棟に御野場在宅ケアセンター（デイサービス、介護支援、訪問看護、ホームヘルパー）が開設されました。平成18年に32床の回復期リハビリテーション病棟が新設され、現在の病床構成は、回復期リハビリテーション病床45床、療養型病床107床となっています。

当院が設立されてから36年が経ちましたが、この間、医療の高度化と国民の高齢化により日本の医療費は右肩上がりに増大し、国の医療政策は大きく転換しました。本年4月



の診療報酬改定では、医療機関の更なる機能分化と、徹底した効率化が求められています。また、医療から介護・福祉への継ぎ目のないサービス移行の必要性も強調されています。

秋田県は日本一高齢化が進んでいますが、かつて新興団地であった御野場とその周辺地域も例外でなく、高齢者夫婦のみの世帯や独居高齢者が増えており、団地内にある公園では若者や子供の姿を見かけることが少なくなりました。このような環境の下、当院は地域の医療需要に応えるべく、回復期リハビリテーション病棟と療養病棟での診療を充実し、外来では認知症等の高齢者の慢性疾患の診療にも力を注ぎたいと考えています。また、在宅支援を拡充し、患者さんには訪問診療のみでなく、必要なサービス（訪問看護・リハビリ・介護・ヘルパー）を随時提供できる体制に整えていきたいと考えています。

平成23年に創刊したこの広報誌も9号を発刊することができました。連携する病院や介護福祉施設等に送らせていただいておりますが、当施設に対するご意見、ご要望等がございましたら、ご遠慮なくご連絡いただければ幸いです。



2B病棟 の紹介

当病棟には脳神経疾患の慢性期の患者さんや神経難病で長期療養を目的とした患者さんが入院されています。殆どの患者さんが日常生活で全介助を必要としています。朝の洗面介助から始まり口腔ケア・食事介助・おむつ交換・入浴介助など、看護・介護の両面からサポートしています。

ご家族とのコミュニケーションから、ご家族の要望も取り入れ患者さんもお家族も安心した環境で療養生活が送れるよう取り組んでいます。今後も担当医師のもとスタッフ一同で“まごころのケア”を提供していきたいと思っています。

スタッフの 声

- みんな仲良く元気に仕事しています
- 和気あいあい明るい病棟です
- チームワークがとても良く、助け合いながら頑張っています
- 笑顔がすてきなスタッフが揃っています
- 力持ちで優しく、頼りになる男性スタッフがいます
- 患者さん一人一人のことをよく考えたケアを心掛けています
- 勉強会や研修に積極的に参加する向上心の強いスタッフ達です



ナースセンター



病室

病棟案内

2階	2A 病棟 (201 号室～ 220 号室)	回復期リハビリテーション病棟
	2B 病棟 (221 号室～ 233 号室)	特殊疾患病棟
3階	3A 病棟 (301 号室～ 313 号室)	特殊疾患病棟
	3B 病棟 (320 号室～ 333 号室)	療養病棟

入院の対象となる患者さん

- 神経難病の患者さん
- 回復期リハビリテーション病棟の対象となる患者さん
- 脊椎損傷などの重度障害者
- 重度意識障害者
- その他難病患者
- それに準ずる状態の方

食事療養について

- 当病院では、管理栄養士によって管理された食事を適時適温で提供しております。

朝食：午前8時

昼食：正 午

夕食：午後6時

僕らにできること

地域の繋がりが希薄になった、とよく耳にします。社会問題にもなっているようです。それが深刻になるとニュースで目にする「孤独死」なるものに結びつくのでしょうか。ただ、秋田については一概にそうとも言えないのかな、と思うことがありました。

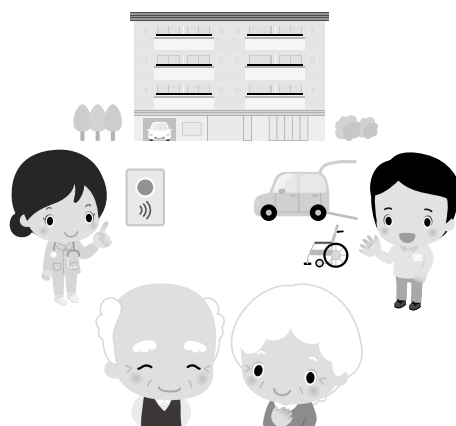
私事ですが、昨年9月にアパートから一軒家に引っ越しをしました。子供がまだ小さいので、子供の声（叫び）で近隣の方にご迷惑になると考えたからです。アパートに住んでいる皆様にはわかってもらえると思うのですが、その時には町内会は「会費を納めるもの」程度の認識でした。ゴミ当番は交代でやっていましたが、それ以外の行事には参加したこともありませんでした。どちらかというと「めんどくさい。」というのが本音だったと思います。

ただ転居後、一軒家に引っ越ししてきた以上「知らん顔」というわけにはいかないので、という「どちらかというと後ろ向きな思い」を抱えていましたので、最初に町内会長さんのところにご挨拶に伺いました。笑顔で快く迎え入れていただき「時間があるときでいいですから、行事にも参加してください。」というお言葉も貰いました。（勝手に）気分を良くした私は、「一度行事に参加してみようかな」と若干前向きな気持ちになりました。次の行事は町内会の総会でしたので「お酒も飲めそうだし行ってみるか。」と不純な動機よろしく、一人では心細いと妻と子供を連れて勇んで向かいました。町内会の総会では、見ず知らずの私に皆さんが声をかけてくださり、思いのほ

か？楽しくお酒をいただくこともできました。つい先日はクリーンアップ作戦なるものに参加し、朝からゴミ拾い。一人で集合場所に向かうときはまだドキドキしていましたが、「高橋さん、こっちこっち。」という言葉で心がほぐれた私は、いつの間にかゴミ拾いに熱中していました。地域の繋がりというのはこういうことなんだ、と改めて認識した体験だったと思います。

今、医療・福祉分野では「地域包括ケアシステムの構築」という言葉が盛んに叫ばれています。地域包括ケアシステムとは至極簡単にいうと『介護が必要になった高齢者も、住み慣れた自宅や地域で暮らし続けられるように、「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい」の五つのサービスを、一体的に受けられる支援体制のこと』です。これらのシステムがうまく構築される為には、今の僕らの年代が地域社会に積極的に参加しようという姿勢と既存の地域住民の方が快く受け入れてくださる体制が重要になるのではないのでしょうか。そう考えると「僕らにできること。」がまだまだあるように思えるのです。

総務課 高橋 朋克



診療担当が変更になりました。



平成 26 年 4 月 1 日より診療担当が変わりました。

◆診療担当医表

		月	火	水	木	金
午前	内 科	寺田 邦彦	三浦 莊治 金谷 有子	皆河 崇志	三浦 莊治 金谷 有子	寺田 邦彦
	泌尿器科	三浦 邦夫	—	三浦 邦夫	—	—
午後	内 科	鎌田 誠	—	寺田(第1・3・5) 市原利晃(第2・4)	皆河 崇志	—
	リハビリ・内科	—	小林 佳美	—	—	三浦 忠俊

※出張などにより、担当医が変更になる場合がございます。指定の医師をご希望の場合は、事前にお問合せください。

◆診療時間

	午 前	午 後
月～金	9時～12時	1 時30分～3 時

※午前の受付は 11 時 30 分までをお願いします。

◆休診日

毎週土曜・日曜、祝祭日、年末年始



外来待合室



診察室

訪問診療 のご案内

当院では、ご自宅で療養している患者さんや家族の方が、安心して生活できるようサポートしております。

▶ 訪問診療では

お身体が不自由で通院が難しい方、寝たきりの方、退院後のケアが必要な方のために、医師が定期的かつ計画的にご自宅にうかがって診療をいたします。

▶ 訪問回数

おおむね月に1回ですが、患者さんの状態に合わせて回数を調整します。

▶ 当院の訪問診療での診療内容

- * 定期的な診察（血圧測定・処方箋発行など）
- * 血液検査・尿検査
- * 注射・点滴
- * 経管栄養チューブ管理（胃瘻・経鼻・腸瘻）
- * 尿管カテーテル管理
- * 褥瘡（床ずれ）処置
- * 在宅酸素療法・気管切開カニューレ管理
- * 人工肛門管理 など



▶ 連携体制について

訪問看護ステーションやヘルパーステーションと連携して活動しております。

また、当院では秋田往診クリニックとの往診連携も行っておりますので、24時間体制での診療も可能です。

▶ 入院が必要になったときは

希望する病院へ紹介いたします。

当院への入院が可能な場合は、速やかに手配いたします。

▶ 訪問診療を希望される場合は

医療相談室または、外来看護師（訪問診療担当）までご連絡ください。

桜
—
咲
く
—

花言葉は「優れた美人」「純潔」「精神美」「淡泊」。長い冬を越え、暖かい春の訪れとともに、様々な場所で素晴らしい景色を見せてくれる桜。桜の花は一瞬にして開花するために、こんなところにも桜が植えられていたのかと、はっとさせられることがよくあるとともに、沢山の人に親しまれている桜は、やはり日本を象徴する花の一つだと感じます。

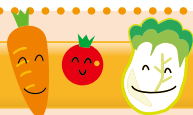
桜の花芽は前年の夏ころ形成され、秋から冬に低温にさらされることで、開花の準備を開始します。四季がはっきりしている日本だからこそ、桜の花が一斉に綺麗に咲き誇るのだと思います。一斉に咲いた桜は、一斉に散ってしまいます。そんな儚い桜の姿を知っているからこそ満開の桜を見ると、嬉しいような切ないようななんとも言えぬ気持ちになるのは私だけでしょうか。何も言わず、季節のうつりかわりと時の流れを教えてくれる桜に感謝し、また来年もきれいな花を咲かせてくれることを願います。

辞令交付式・院長就任式

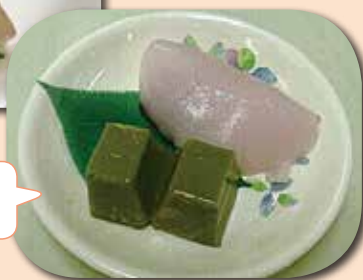
当院も新しい年度を迎え、辞令交付式と院長就任式が行われました。今年度は、リハスタッフや介護福祉士計7名が新規採用され、昇任辞令交付も同時に行われました。引き続き皆河先生の院長就任式も行われ、新たな体制がスタートいたしました。皆河院長の熱意あるお言葉に、職員一同気持ちを新たにされたことでしょう。



栄養科より



抹茶蒸しカステラ
& 白桃羊羹



桜もち&抹茶豆腐



今回は、『春の茶話会』についてご紹介します。当院では、偶数月に茶話会を実施し、季節にあったお菓子を患者さんに召し上がっていただいております。

4月は、17日に実施し、春の和菓子と題し、患者さんの食事形態にあわせ、『抹茶蒸しカステラ&白桃羊羹』と『桜もち&抹茶豆腐』をご用意しました。

中でも、桜もちは、お粥をミキサーにかけて、そこに砂糖・桜フレーバー・とろみ剤を加え、加熱し、それを桜もちの皮に見立てて、あんをくるんで作ったため、なかなかまとまらず、何度も試作を重ねました。試行錯誤の結果、ようやく茶話会の前日にレシピがまとまり、ホッと一安心。お粥をミキサーにかけて、とろみ剤を加えることにより、お粥がまとまり、飲み込みやすくなりますので、患者さんにもムセることなく召し上がっていただき、とても好評で、私たちスタッフも、クセになる味・気になる食感で試食する手が止まりませんでした（笑）

患者さんからは、「おいしくて、もうないよ。おかわりちょうだい。」「彩りがキレイで、春の色だねえ。」といった声をかけていただきました。

入院中に、窓からの風景の移ろいに季節を感じる患者さんも多数いらっしゃると思いますが、私たちは『旬』のものを口にさせていただくことにより、食事から季節を感じとっていただけるように、日々の食事作りを励んでいきたいと思っています。